

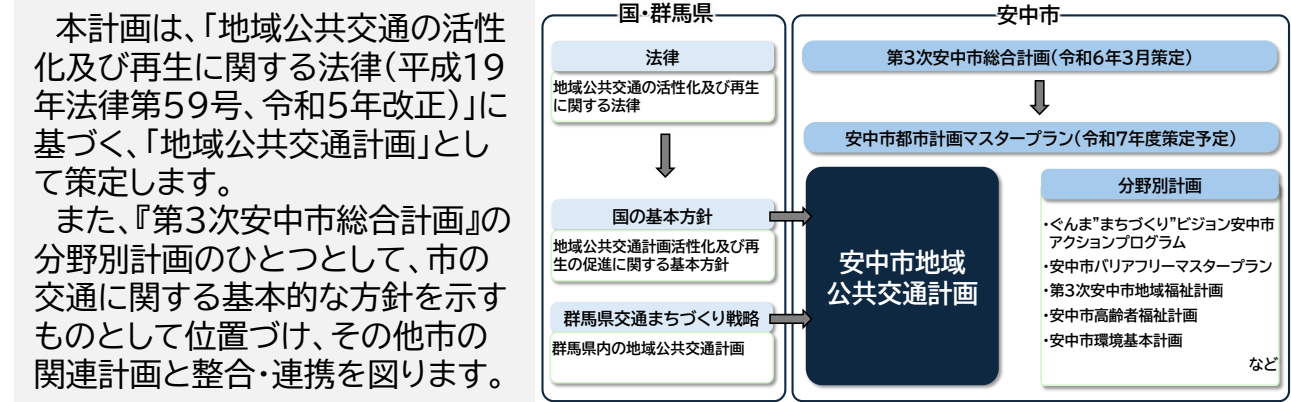
【R6.10月現在】安中市地域公共交通計画概要版

1. 計画策定の背景と趣旨

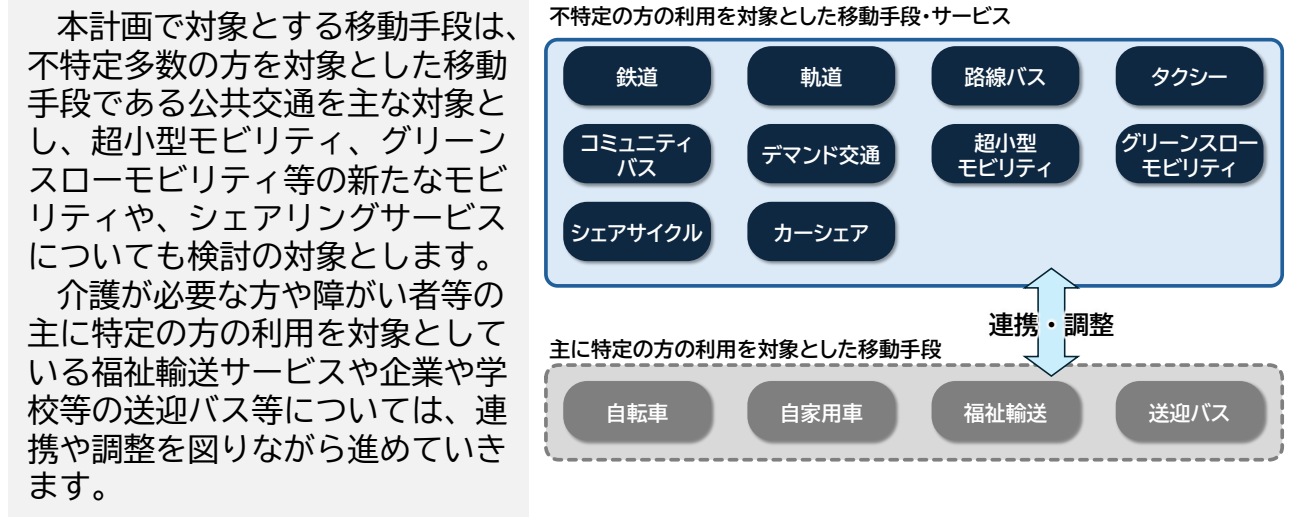
令和2年に改正された「地域公共交通計画の活性化及び再生に関する法律」により、原則としてすべての地方公共団体において、地域公共交通計画を作成することが努力義務化されました。また、令和5年の改正では、地方公共団体や民間の多様な主体等の「地域の関係者」との連携・協働を推進することが明記されました。

このような背景を踏まえ、安中市では、『第3次安中市総合計画』で定められている安中市のまちの将来像を実現するための地域公共交通に関するマスタープランとして、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、『安中市地域公共交通計画』を策定することとしました。

2. 計画策定の背景と趣旨



3. 計画の対象交通サービス



4. 計画の期間

本計画は、令和8年度からの5年間の計画とします。また、原則として5年後に計画の見直しを行います。

5. 計画の区域

本計画は、安中市全域を対象とします。

5. 公共交通に関する市民ニーズ等の把握

①市民アンケート調査結果

- ・安中市民の移動実態や公共交通に関する意向などを把握するために、アンケート調査を実施しました(R5.11.13～11.30)。調査票は市内14地区に143票ずつ配布し、918票の回答がありました。
- ・最もよく利用する交通手段は車が最も多く、公共交通を挙げる方は少なくなっています。
- ・公共交通機関の満足度については、全体的に「どちらでもない」の回答率が高くなっていますが、鉄道、タクシーは満足度が高く、路線バス、乗合タクシーは「やや不満足」、「不満足」と回答した方が多くなっています。
- ・導入の是非を検討している「デマンド型交通」については、「定期的に利用する」と回答した方は少ないものの、「将来的に利用する」と回答した方が約4割を占めており、一定程度の需要は見込めると考えられます。



②公共交通検討会（ワークショップ）結果

- ・安中市の地域公共交通にあたって、住民から広く意見を徴収することを目的とし、公共交通検討会(ワークショップ)を開催しました。
- ・安中市市内を10地区に区分し、下表に示すとおり、令和6年5月13日(月)～5月24日(金)の10日間にわたって開催し、合計85名の方にご参加いただきました。

開催日	会場	対象地区	参加者数
5月13日(月)	坂本・入牧地区生涯学習センター 多目的室	坂本	11人
5月14日(火)	臼井地区生涯学習センター 多目的室	臼井	13人
5月15日(水)	細野地区生涯学習センター 多目的室	細野	9人
5月16日(木)	松井田支所 基幹集落センター 1F研修室	松井田	0人
5月17日(金)	西横野地区生涯学習センター 多目的室	西横野	10人
5月20日(月)	九十九地区生涯学習センター 多目的室	九十九	5人
5月21日(火)	磯部公民館 講義室	磯部・東横野	6人
5月22日(水)	原市公民館 講義室	原市・後閑	15人
5月23日(木)	板鼻公民館 講義室	板鼻・岩野谷	12人
5月24日(金)	安中市役所 本庁舎 305会議室	安中・秋間	4人
合 計			85人

公共交通検討会（ワークショップ）での市民からの主な意見

項目	主な意見
路線バス	・居住地が山間部やバス路線から外れている場合、バス停までの距離が遠く利用しづらい ・バス停までの距離が遠く加齢により公共交通を利用できなくなることを懸念 ・運行日、運行時間帯の変更が必要 ・鉄道と路線バスとの間でダイヤ調整が必要 ・路線バスに馴染みの少ない方も多いので利用時のハードルを下げるような取組が必要
乗合タクシー	・利用しようと思っても予約が取れない場合がある ・費用も安く便利なので日曜・祝日の運行を希望 ・若い人も利用できるように工夫が必要
タクシー	・電話をかけても繋がらないことや予約が取れない場合がある
公共全般	・電話をかけても繋がらないことや予約が取れない場合がある ・安全面を考え、マイカーから公共交通に切り替えてもらうような啓発が必要 ・自動車が運転できなくなった場合が不安

6. 安中市の公共交通に関する課題の整理

地域現況、市民ニーズ、社会動向等の整理結果から安中市の公共交通に関する課題を以下のように整理しました。

課題① 市民ニーズに合致した利用しやすい公共交通サービスの再構築が必要

- 安中市内の公共交通のうち、路線バス、乗合タクシーについては、アンケート調査において「不満足」、「やや不満足」と回答した方の割合が多いなど、**市民のニーズに合致していない可能性**が高い。

課題② 公共交通空白地域の解消に向け新たな公共交通の導入が必要

- 安中市内は**公共交通空白地域**が広がっており、その割合は**面積比で約8割、人口比で約3割**(市民の3人に1人)。
- 今後、益々増加していく高齢者はもとより、市内に居住する誰もが安心して暮らせるよう市民の移動を支える新たな公共交通サービスの検討が必要。

課題③ 公共交通の維持に向けた周知・利用促進が必要

- 市内を運行する路線バス、乗合タクシーの利用者数は、依然として**コロナ禍前の水準には回復していない**状況。
- 安中市は、自動車への依存度が高く、公共交通の利用に抵抗を感じる方、利用の仕方が分からない方も存在すると考えられる。このため、**公共交通の利用のしやすさを向上**するため、**分かりやすい情報発信**などを行い公共交通の利用を促進していくことが必要。

課題④ 担い手不足の改善や新技術等の導入による業務効率化が必要

- 全国的にバス、タクシー事業所の労働者平均年齢は全産業平均より高く、高齢化が深刻。
- 交通事業者の担い手不足の中でもサービス水準を維持していけるよう、**労働者の負担軽減に資する省力化(運転支援機能の向上)**の取組や、**自動化の取組**を進めることにより、**効率的な運用**を行っていくことが必要。

課題⑤ 公共交通に係る施設、車両のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化が必要

- 高齢者や障がい者の方をはじめ、市内に居住・来訪する**誰もが安全、円滑に移動**できるよう公共交通に係る施設や車両の**バリアフリー・ユニバーサルデザイン化**への対応が必要。
- 今後、安中市でも外国人観光客の増加が期待されることから、**外国人旅行者の利用促進**を図るために、公共交通に係る施設や車両等の**案内サインの多言語化**が必要。

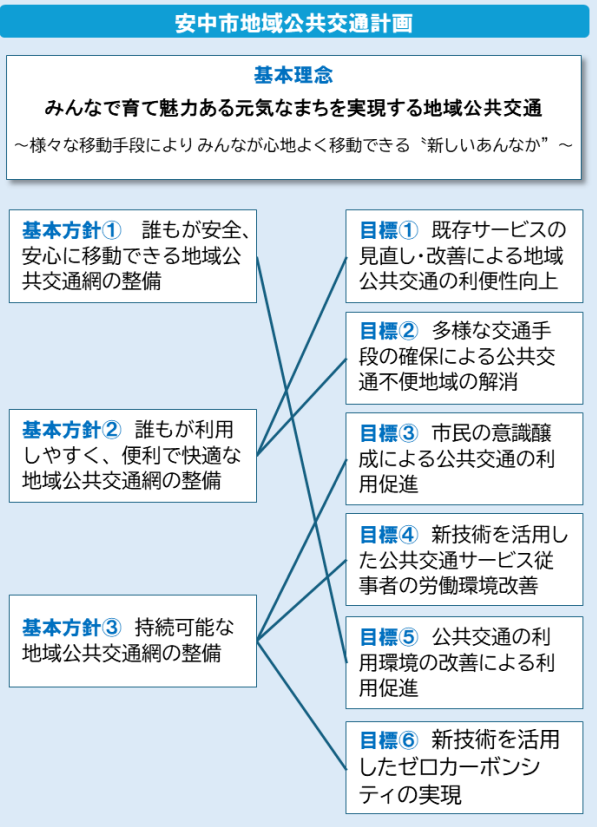
課題⑥ ゼロカーボンシティの実現に向けた取組が必要

- 国では、温室効果ガスの削減やカーボンニュートラルの実現を目指す取組みを加速化しており、その一つとして消費エネルギーの削減を図ることが課題となっており、安中市も令和5年度に「**CO2排出量実質ゼロ宣言(通称:ゼロカーボンシティ宣言)**」を表明。
- 環境負荷の低い**燃料電池車(FCV)**、**バッテリー駆動の電気自動車(BEV)**の開発が進み、公共交通車両においても導入が進みつつあることから、これらへの対応が必要。

7. 目指すべき将来像、基本方針、計画の目標

安中市地域公共交通計画では、右図に示すように、目指すべき将来像を「みんなで育て魅力ある元気なまちを実現する地域公共交通～様々な移動手段によりみんなが心地よく移動できる」新しいあんなか“～”とし、達成に向けて3つの基本方針、6つの計画目標を定めます。

上位計画
第3次安中市総合計画
安中市都市計画マスタープラン
公共交通に係る課題
課題① 市民ニーズに合致した利用しやすい公共交通サービスの再構築が必要
課題② 公共交通空白地域の解消に向け新たな公共交通の導入が必要
課題③ 公共交通の維持に向けた周知・利用促進が必要
課題④ 担い手不足の改善や新技術等の導入による業務効率化が必要
課題⑤ 公共交通に係る施設、車両のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化が必要
課題⑥ ゼロカーボンシティの実現に向けた取組が必要



8. 計画目標毎の数値目標と取組施策

本計画の6つの計画目標を達成するため、今後、以下に示す数値目標を掲げた上で各種の施策を実施していきます

計画目標		数値指標		取組施策(案)	
目標①	既存サービスの見直し・改善による地域公共交通の利便性向上	指標1	安中市委託路線の利用者数	施策1-1	路線バス、乗合タクシー網の再編、運行サービスの見直し、改善
		指標2	安中市委託路線の収支率		
		指標3	安中市委託路線の公的資金投入額	施策1-2	路線バス、乗合タクシーの運行ダイヤの見直し、調整
		指標4	公共交通の満足度(アンケート)		
目標②	多様な交通手段の確保による公共交通不便地域の解消	指標5	シェアリングサービスの導入数	施策2-1	既存の公共交通サービスと連携、補完する新たな移動手段(AIデマンド交通等)の導入
		指標6	公共交通カバー率(公共交通空白地域の割合)	施策2-2	公共交通を補完するシェアリングサービス(電動キックボード、シェアサイクル等)の導入
施策2-3				鉄道新駅の整備促進	
目標③		市民の意識醸成による公共交通の利用促進	指標7	公共交通乗り方教室、乗車体験会の開催回数	施策3-1
	施策3-2				公共交通の利用啓発、案内の充実(情報提供、マップ、ホームページ、イベント)
	施策3-3				モビリティマネジメント等の実施による公共交通の利用促進
目標④	新技術を活用した公共交通サービス従事者の労働環境改善	指標8	交通事業者の二種免許保有者数(タクシー、バス)	施策4-1	新技術導入による管理の効率化(ICTを活用した遠隔点呼、運行管理の一元化)
				施策4-2	自動運転車両の導入
				施策4-3	ドライバー等公共交通従事者の待遇改善等による人材の確保
目標⑤	公共交通の利用環境の改善による利用促進	指標9	駅・停留施設、運行情報、広報媒体等の多言語化の実施事業数	施策5-1	交通施設、車両のバリアフリー化の推進
				施策5-2	多言語に対応した公共交通に関する情報提供の充実
				施策5-3	バス待ち環境の改善(バス停上屋の設置、情報提供等の充実)
				施策5-4	MaaSサービスの導入、既存のMaaSサービスとの連携
目標⑥	新技術を活用したゼロカーボンシティの実現	指標10	EVバス等の導入車両数	施策6-1	EV(電動)車両、FCV(燃料電池)車両等の導入